

イ千流

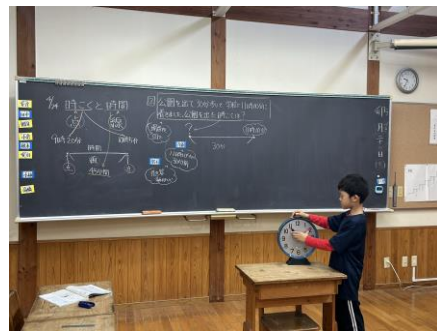
大島町立さくら小学校
3 学年 学年通信
令和7年 4/25 No. 9
3年担任 伊藤 貴之

聞く姿勢を育てる

「協働的に学ぶ」という言葉が教育会では盛んに言われています。おうちの方々には、あまり聞きなれない言葉と漢字かと思います。「きょうどう」というと「共同」や「協同」というような漢字が思い浮かぶ方も多いのではないのでしょうか。この言葉が出てきたときは、この「協働」という漢字には違和感を感じたことを覚えています。では、「協働」とは。同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くことと記されています。この言葉の捉え方はいくつかあるようにも感じます。それだけ、難しい言葉だと私は捉えています。しかしながら、課題を仲間と共に解決することには大きな価値がありますし、そんな学級を作っていきたいと思っています。

そして、この「協働」に欠かせないのが、友達の意見を「聞く」ということです。これがなかなか難しい。もちろん子どもが主体性をもって「あの子はなんて言うんだろう」「どうやって答えを導き出したのか気になる」となってくれるのが一番ですし、そのような授業を行っていきたいと考えていますが、まずその素地として「聞く」練習が必要だと思っています。

これはある日の算数の授業です。時刻と時間の学習の中で、小林君が解答し、その解法について上手に説明してくれました。「では、今のそうたくんの説明をもう一度してくれる人いますか？」と問うと、誰も挙手をしなかったのです。これが保護者会でもお伝えした「話したい」はあるが、自分が指名されなくなった瞬間に気持ちがどこかへ行ってしまうのです。せっかく上手な説明を聞くチャンスなのに。なので私は、「今の〇〇さんの説明をもう一度してほしいな。」と問いかけるようにしています。このやり取りの良さは、まずは友達の発表を聞かなくてはという意識が向上し、教室の空気が静まります。また、聞いたこと（インプット）ことを話すこと（アウトプット）は非常に難しい作業のため、思考力がかなり鍛えられます。そして、もう一つ。それはまだ問題の答えを一回では理解できなかった子も二回目の説明を聞くことで理解が深まるという利点も大きいです。そんな一場面を紹介します。



斎藤くんの解き方を小林君がしっかりと聞き、同じ説明をしてくれました！そこでキーワードとなる言葉も再確認ができます。その次の問題では、安達さんの考えを高橋さんがより分かりやすく説明してくれました。だんだんこちらのねらいが子どもたちにも伝わってきたようです。